

27年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年5月1日～ 27年5月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
入荷動向	スギ	9.1	9.1	13.6
	ヒノキ	△ 12.5	6.3	0.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 75.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	△ 6.8	2.3	11.4
	ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	5.6	△ 5.6
	ヒノキ	△ 28.6	△ 21.4	△ 21.4
	カラマツ	△ 100.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 25.0	25.0

・スギの原木入荷は3ヵ月連続して増加、ヒノキは5月の減少が6月は増加し、7月は横ばい、カラマツは5月及び6月の減少が7月は横ばい、トドマツは5月の減少が6月横ばい、7月増加。

・スギの原木消費は、5月の減少が6月、7月は増加、ヒノキは5月、6月の減少が7月は横ばい、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは5月、6月の横ばいが7月は増加。

・スギの原木在庫は、5月の横ばいが6月は増加し、7月は再び減少、ヒノキは3ヵ月連続して減少、カラマツは5月、6月の減少が7月は横ばい、トドマツは5月、6月の減少が7月は増加。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/5月	6月	7月
スギ	△ 47.7	△ 22.7	△ 18.2
ヒノキ	△ 18.8	△ 37.5	△ 25.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	25.0	0.0	25.0

・スギ及びヒノキの原木価格は弱含みで推移、カラマツは保合で推移、トドマツはやや強保合ないし保合で推移。

モニターからのコメント

* (原木荷動き)

・例年通り4～5月は入荷低調、本格入荷は5月からの予定。しかしカラマツは常にタイトな状況、トドマツは住宅向けが不振で今年度は供給過剰が予想される。但しバイオマスでの利用が本格化し、低質材はそちらに流れる。消費は、産業用途は未だ堅調な需要に支えられているが、4月になり本州でスギ・ヒノキの住宅向けが不振で原木価格が下がり、産業用途に再参入してきた。これが長期化すると産業用途向けが主体のカラマツも需要不振につながる可能性がある。トドマツは住宅不振で冴えないが状況下だが、当社は産業用途も合わせて使用量が幾分増加傾向にある。全体的には供給過剰感ある。

・トドマツは未だ林道崩れる恐れあり入荷少ない、5月下旬より入荷増える見込み。生産は順調。今年度の国有林公売、システムも6月以降の入荷？

・スギ、ヒノキは市場への出材量減、毎月の生産分のみ仕入。製材数量は変えず。スギ注文材あり。在庫総量は減少、毎月の生産分を維持。

・ヒノキ入荷は7月位まで横ばい、販売量に応じて消費量をコントロール、7月までは横ばい。傷み、干割れが起きるので少ない在庫でコントロール。

・年度末と悪天候で原木出荷が落ち込んでいたが、天候回復と新年度補助金がつき次第、出荷が増加と考える。製材製品の動きが今年に入って特に悪い、上向く好材料も見当たらない。生産調整やむなし。バイオマス発電が稼動し始めて原材料の価格が、製品が売れないのに上昇している。

・スギ出材増加、ヒノキは変わらず。ヒノキの注文(特に柱)は相変わらず低調、スギは4月後半から順調。在庫はスギ、ヒノキとも変わらず。

・天候のせいか丸太出材が少ない、在庫少なく製材機械を止める日もある。

・大型工場からの入荷ストップと天候不順が重なれば総じて入荷の減少の可能性ある。個本的に消費は入荷動向に反映されるが、バイオマス事業の動きによっては多少消費は多くなるのでは。

・入荷は7月以降は梅雨入りのためやや減少、生産は変わらず。

・時期的に虫食い、黒心材の増加が懸念される。

(原木価格)

- ・トドマツは今年度はこれからのスタート、バイオマス関連もあり高値安定が続くと予想。
- ・スギ、ヒノキは買い気は低い、先々は品薄からやや上昇か。
- ・7月少し上がると予想。
- ・3,4月は年度末と悪天候で出材減となり製品荷動き悪い中、原木価格上昇した。またバイオマス発電稼働のため原木価格の底上げがある。新年度、天候回復で出材も増え、価格の安定を期待。製品価格と原木価格のバランスがとれていない。
- ・出材が増えると共に単価も落ち着いてきた。
- ・丸太出材少ないため価格は横ばいか多少上向き。
- ・確実に量は減ってきており、輸出、バイオマス事業社の動き次第では単価上昇もある。
- ・価格は横ばい。

27年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
生産動向	スギ	△ 5.0	0.0	5.0
	ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	△ 7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
出荷動向	スギ	△ 13.6	△ 9.1	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
在庫動向	スギ	15.0	15.0	15.0
	ヒノキ	7.1	7.1	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	25.0

・スギ製材品の生産は5月の減少が6月は横ばい、7月は若干の増加、ヒノキは3ヵ月連続して減少、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは5月、6月の横ばいが7月は増加。

・スギ製材品の出荷は5月、6月の減少が7月は横ばい、ヒノキは3ヵ月連続して減少、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは5月の減少、6月の横ばいが7月は増加。

・スギ、ヒノキ及びトドマツ製品の在庫は、3ヵ月連続して総じて増加、カラマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 40.9	△ 31.8	△ 27.3
	柱角 KD12×3	△ 45.5	△ 36.4	△ 31.8
	通し柱 12×6	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	桁角	△ 27.8	△ 22.2	△ 22.2
	母屋角	△ 30.0	△ 25.0	△ 25.0
	タルキ	△ 33.3	△ 27.8	△ 27.8
	間柱	△ 38.9	△ 33.3	△ 27.8
	ヌキ	△ 38.9	△ 33.3	△ 27.8
	平割	△ 27.8	△ 22.2	△ 22.2
	ラミナ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	柱角 KD12×3	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	土台角 10.5×4	△ 31.3	△ 25.0	△ 25.0
	土台角 12×4	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	通し柱 12×6	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	ラミナ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	100.0	△ 50.0	△ 50.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ及びヒノキ製材品の出荷価格は弱含みで推移。

・カラマツ梱包仕組み板の価格は保合で推移。カラマツラミナは5月の強含みが6月、7月は弱含みに。

・トドマツサンギは保合で推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツは、未だに荷動き悪いため受注も少し鈍ってきた。仕事は見えているとの事だがスタートが見えない。急ぎの注文がなくなっている。生産から出荷まで余裕ある。
- ・生産、出荷は7月頃までほぼ変わらない、在庫は少し減らす。
- ・注文増に対応してスギ製材は増加、スギは在庫が減りつつあるので製材を増やし量を維持、ヒノキは在庫を減らしたい。
- ・原木消費量は前年度を下回る。スギ、ヒノキとも製品の出荷は低迷、生産、販売低迷で徐々に在庫も積み増している。
- ・生産調整するメーカーが出て来れば減産も仕方ない。プレカット工場は短期的ではあるが忙しい所もあり、多少の期待はあるが、市場に多くのアイテムがあふれており、メーカーはまだまだ厳しい状況が続くのでは。各メーカー在庫過多では。
- ・生産は通常通り、需要減退で販売不振。
- ・製品が出ないため生産調整。出荷も非常に落ち込んでいる。そのため、在庫は増加。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツは原木価格が下がらない限り製品価格は横ばい、受注が落ちると値下げ要請あるかも？
- ・スギは全部値下がり、売りづらい。
- ・スギ、ヒノキは生産の稼働日数は変えず。スギ集成用原板が今月末から来月出荷、ヒノキ製品の先月予定分が今月にずれ込む。荷動き悪くアイテムによって過剰感あるものを調整、不良性はない。
- ・スギ、ヒノキは買い気低く荷動き悪い。
- ・ヒノキは相場に左右され難い物づくりをする。
- ・4月の相場からスギ、ヒノキとも横ばい。
- ・スギは軒並み製品価格が下落、特にスギ3m、12cm角の売行きが極端に悪い。ヒノキの下落傾向に底が見えない、ヒノキ4m土台用の値崩れがこわい。
- ・単価を下げてでも流通するわけでもないので、スポット単価ではあるかも知れないが極端な下げはないのでは。
- ・ヒノキ売れないためやや下落。
- ・スギ生産過剰でやや下落。

27年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入は5月の増加が6月、7月は横ばいに、NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して減少。

・米マツ丸太の消費は5月の増加が6月、7月は横ばいに、NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して減少。

・米マツ丸太の在庫は5月の増加が6月、7月は横ばいに、NZラジアータ丸太は5月、6月の横ばいが7月は減少。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/5月	6月	7月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ丸太	—	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	0.0	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は5月、6月の弱含みが7月は保合、NZラジアータ丸太は保合で推移、北洋エゾマツ丸太は5月は保合。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・Zラジアータ丸太の入荷はやや減少、消費は少ない。

27年5月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
生産動向	米マツ製材品	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	△ 50.0	0.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	50.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は5月の増加の後、6月、7月は横ばい、NZラジアータは5月の減少、6月の横ばい、7月は増加。

・米マツ製材品の出荷は5月の横ばいが6月、7月は増加に、NZラジアータは5月、6月の横ばいが7月は増加に。

・米マツ製材品の在庫は5月の増加が6月、7月は横ばい、NZラジアータは5月の増加が6月は横ばい、7月は減少。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
米マツ平角		△ 50.0	△ 50.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割		△ 50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	50.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格は5月の弱保合が6月、7月は総じて保合。NZラジアータ製材品は5月の保合が6月、7月は強含みないし保合。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品は5月末まで減産し、6月から通常になる見通し。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品の荷動き悪く、減産している。